むすび塾

災害時 要援護者の支援

顔の見える関係 構築を

巡回ワークショップ ＠名取・尚絅学院大

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社は昨年12月17日、名取市の尚絅学院大で巡回ワークショップ「むすび塾」を開いた。東北以外の開催も含めて通算39回目。減災・復興支援機構（東京）の木村拓郎理事長が進行役を務め、大学ボランティアステーションで活動する学生14人が、災害時の要援護者のサポートについて意見を交わした。

むすび塾参加者を対象にしたアンケートには、お年寄りや障害者、外国人らのサポートが被災時の課題として寄せられた。学生たちは、要援護者支援や日頃の交流について意見を出し合った

名取の丘陵地にある尚絅学院大は、学生約2000人が通う。2012年にボランティアステーション（ボラステ）を開設。現在約120人の学生が登録し、仮設住宅などで傾聴ボランティアや催事運営の手伝いを続ける。

参加者を対象に実施した事前アンケートでは、8人がお年寄りや身体障害者の避難を課題に挙げた。支援には事前に所在を確認する必要がある一方で、現状は個人情報の保護が壁となり、地域で暮らす要援護者が見えにくくなっている。

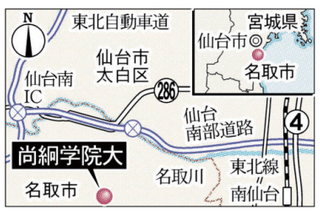
ある学生は「地元中学校の防災訓練では、隣近所のお年寄りの安否確認練で作った食事を、子どもにお年寄りの家に運んでもらい、交流の機会にしている」と他都市の事例を紹介した。

外国人への防災情報の発信についても話し合った。ベトナム人留学生の1年レ・ティトウイ・キョウさん(30)は「日本の習慣や言葉を誤って解釈する。言葉が分からないことが一番の不安」と率直に語った。

減災・復興支援機構の宮下加奈専務理事は「留学生の協力を得て、複数の言語で避難時に必要なことをまとめたパンフレットを作るのもいい」と提案。2年平塚亜加里さん(19)は「災害時に役立つ共通のロゴやマークがあると分かりやすい」とアイデアを出した。

3人の学生は、聴覚障害者への支援について不安を抱いていた。手話の心得のある人は限られる。停電で真っ暗な時は筆談も難しくなる。

木村理事長は「障害の種類で支援の内容は変わる。障害の疑似体験などを通して特性について学んでほしい」と述べ、「特別扱いばかりせず、特性を理解した上で避難所でも役割を分担するギブ・アンド・テークの関係を構築することが望ましい」と助言した。



きっかけづくり探そう

減災・復興支援機構専務理事　宮下　加奈さん

災害時、体の不自由な人やお年寄り、外国人ら要援護者を支援するためには、事前に所在や状況を把握する必要がある。そのためには普段の付き合いが大切だが、どうしていいか分からない人も多いだろう。

このように、学生と地域住民が交流を図る取り組みは全国にたくさんある。きっかけづくりがうまくいけば、互いに顔見知りになり、いざというときの助け合いに役立つ。

私は中学生のころ、三宅島の噴火で被災し、避難生活を送った。その経験は、より強く生きるための力になったと思っている。皆さんも震災の経験を生きる力にしてほしい。

行動の変化期待したい

尚絅学院大職員　佐々木真理さん

東京都世田谷区の町内会は区内の大学と覚書を交わし、非常時には、体育会に所属する学生を派遣してもらうようにした。その代わり、学生たちの試合があると町内会が応援に行く。

むすび塾での学生の発言を聞いて、今後の行動の変化に期待を抱いた。

要援護者とその家族に対する支援の必要性については考えさせられた。個人的な話だが、私にも日常的に医療器具を必要とする家族がいる。普段から周囲に迷惑を掛けないよう努めてきたが、見方を変えれば「オープンにできなかった」ということもできる。

要援護者の家族は、同じように周囲に助けを求めにくい現状にあると言えるかもしれない。支援の課題を共有するためにも、まずは自分から学生たちに家族の話をしていこうと思う。

■むすび塾に参加して——名取・尚絅学院大

【災害時の不安】祖国のベトナムには地震がない。災害時、どこに行ったら安全か分からず不安だ。留学中に災害やボランティアについて、もっと学びたい。＝1年、レ・ティトウイ・キョウさん(30)

【震災時の経験】実家のある宮城県南三陸町で津波の被害に遭い、1週間避難所で暮らした。水がなく、トイレが汚れて大変だった。近くの川からバケツで水をくみ、トイレに流した。＝1年・及川龍哉さん(19)

【震災時の経験】震災後、ライフラインが1カ月止まり、特に水の確保には苦労した。数キロ先の井戸がある家まで自転車で通い、ペットボトルに水を分けてもらった。＝1年・太田優矢さん(20)

【普段の交流について】近所の人との付き合いは少ない。普段からあいさつするよう心掛ければ、災害時に声を掛けやすいと思う。お年寄りの話も、もっと聞くようにしたい。＝2年・平塚亜加里さん(19)

【参加して】震災時は大きな被害を受けず、あまり苦労しなかった。次に何かあったとき、対応できるか不安だ。むすび塾でいろいろと学べてよかった。＝1年・菅井俊彦さん(19)

【参加して】むすび塾のような機会がなければ、震災を振り返ることがなかった。私にできることは、お年寄りと関わること。まずは自分の祖父母に「何かあったらすぐに逃げて」と話したい。＝1年・家村美穂さん(19)

【参加して】震災時に避難所暮らしを経験した。むすび塾でいろいろな意見を聞き、気付いたことがあった。震災の教訓を振り返ることもできた。＝1年・武者理玖さん(18)